

# 藤女子大学 図書館 だより



Fuji Women's  
University  
Library

秋号

No.96  
2018.10



1. シルクロードが持続可能な社会の原風景  
…… 人間生活学科 松田 剛史
4. 教員著作紹介
5. 図書館委員会からのお知らせ
6. 第3回 学生選書ツアー開催
7. LiSt活動報告 第3回
8. 図書館資料Navi 第12回  
辞書は利用すべし、信用すべからず！  
… 日本語・日本文学科 名畑 嘉則

CONTENTS



## シルクロードが持続可能な社会の原風景

人間生活学科 松田 剛史

シルクロードブームの先駆けとなったNHK特集「シルクロード」が放送された1980年代前半、それを何気なく見ていた子どもの頃のわたしは、その東洋でもなく、また西欧のそれとも違う人々の出で立ちや生活、文化にただ漠然と、エキゾチックな何かを感じていた。後、中学3年生の夏、コンビニでたまたま手に取った本が井上靖の『敦煌』だった。11世紀のシルクロードが舞台のこの小説に熱中したわたしは、政治的にまだ簡単に行ける訳ではなかったこの地域に思いを馳せ、取り憑かれてしまった。モンゴル系、チベット系、トルコ系、ツングース系など、さまざまな民族による勢力や国が、互いに入り乱れる様はわたしをワクワクさせた。特に興味をそそられたのが文字と言語。西田龍雄

の『西夏文字の話』を買って読んだが、その頃のわたしにとってはまだ難しかった。

高校では世界史の授業が楽しみで仕方なかった。とにかくなんでも知っている先生で、さも「さっき見てきました」と言わんばかりの口調で話すのだ。いつしか、大学ではシルクロードの歴史地理を専攻しようと決め、東洋史が専攻できる大学に進んだ。ウイグル族に最も関心を寄せていた当時、ウイグル語を勉強し始めたが、あえなく挫折。文字表記がアラビア文字だったからだ。ズボラなわたしは、もっとラクに習得できないかと思って調べたところ、同じトルコ系諸語の共和国トルコ語（いわゆるトルコ語）がアルファベット表記であることがわかり、まずはそこから入って、のちにウ

イグル語へと辿り着こうとした。だが、親日国で歴史的にも面白いトルコ共和国の方にハマってしまい、トルコ語を学び始めることとなった。そんな時に出会った本が三輪主彦の『ボクのトルコ語探検』。数年後に見つけた高橋由佳利『トルコで私



も考えた』は、日本人女性が見たトルコの摩訶不思議なことをわかりやすく描いたマンガ。これはとても読みやすく面白いのでオススメです。まだ当時はトルコへの留学など珍しかった時代。初めて人生を真剣に考え始めたわたしは、外務省や留学センターなどに問い合わせたりしたが、イマイチ現地のことがよくわからないので、2ヶ月で20万円貯めてトルコへ飛ぶこととした。現地の大学や附属の語学校を訪ねて所在や制度を確認した。帰国後、

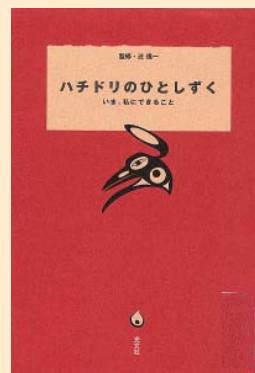


留学の下見に行ったイスタンブル大学正門

トルコ語教室の仲間から国費留学の話を聞き、それに向けて進路を模索した。結局、卒業単位が怪しかったわたしは、そちらに精力を取られ、留学の件は後回しになってしまったまま今に至ってい

る。トルコ系諸民族の形成と発展をテーマに卒論を執筆した際にお世話になったのが京都にある日本トルコ文化協会の図書室。トルコ語教室もここで開催されていたので、よく入り浸っていた。蔵書はそれほど多くないが、専門的な書籍がよく揃っていた。まだネット検索も一般化していない時代、このような場所はワンダーランドであったと言える。

大学卒業後しばらくしてから就職したわたしは、会社員（進学塾）、自営業（たこ焼き屋）、学校教員（中学校）、NPOを経て現在の仕事に就いた。学校教員時代は専門である社会科教育に関する本はほとんど読まず、多文化共生や地球環境に関する本ばかり読んでいた。中でもセヴァン・カリス＝スズキの『あなたが世界を変える日』と坪田愛華の『地球の秘密』、そして南米アンデスの民話を辻信一が監修した『ハチドリの一としくいま、私にできること』に感銘を受けた。『あなたが世界を変える日』は、1992年、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミットで「どうやって直すのかわからないものを壊しつづけるのはもうやめてください」と演説した12歳の少女の物語。このサミットでどの国家の元首よりも心に響く演説であったと評され、「伝説のスピーチ」として語り継がれる。この半年前に描かれた『地球の秘密』は国連グローバル500賞を受賞した作品。作者はこちらも当時12歳の少女で、学校で環境問題について調査活動した際のまとめを漫画で著したものであり、作品完成直後に彼女は帰らぬ人となった。この2作品は、学校教育教材としてもよく使われるが、大人が読むことで日々の忙しさの中で見落としている大切なことに気づける何かがあるように思える。





その一つの見方を示しているのが『ハチドリのひとつく』である。民話なので読みやすく、深く考えさせられる作品である。

そんな地球環境や社会開発のことを考えているうちに会ったのが「持続可能な開発 (Sustainable Development : SD)」という考え方である。これは「環境」と「開発」を相反するものとしてとらえるのではなく、節度ある開発と環境保全とは共存できるという考え方である。わたしたちが住むこの地球には人間以外にも多様な生物とそれを取り巻く「環境」が存在し循環している。またわたしたちが人間らしく生きる「社会」にはさまざまな問題があり未解決のものが山積みである。そのどちらもわたしたち人間にとっては大事であるが、現代社会で人が生活していく上で必要な活動が「経済」であり、これを無視した環境保全や社会開発は現実的ではない。現在の、人間による経済活動や生活水準を維持するために必要な土地などの面積を表した指標であるエコロジカル・フットプリントは地球何個分か。値が1を超えると、今の地球は負荷に耐えられないとなるが、数値がそれを超えてから久しい。すでに持続不可能な社会となっている今、これを持続可能にするにはどうすればよいのだろうか。その根本はやはり「教育」なのである。

2002年のヨハネスブルクサミット（第2回地球サミット：リオ+10）で持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD) の推進を世界に訴えたのが小泉純一郎首相（当時）と日本のNGOであった。これは世界の賛同を得、その普及推進を図るべく、国際キャンペーン「国連持続可能な開発のための教育の10年 (UNDESD)」が2005～2014年にかけて展開された。そのキックオフイベントとして位置付けられたのが愛知万博（愛・地球博）である。

わたしが現在、取り組んでいる研究テーマ「コ

ンピテンシー・ベースでの学びのあり方」「セルフ・リフレクションによる学習評価」「PBLを用いた学びのプロセス」「主体的な学習機会を構築する教員養成・研修」「国際博覧会における市民セクターの役割」などはどれも「ESD」を視点としたものである。またここ最近よく耳にするようになったSDGs（持続可能な開発目標）は、2030年の目指したい社会に向けた世界的な共通目標であり、ここからもSDが国際的共通意識として定着していることがうかがえる。あるべき地球環境や人間社会を100年後の子孫にも受け継いでいきたい。でもそんな先のことまではなかなかイメージできないけど12年後ならできるかもしれない、といったところであろうか。

数年前にJICAの研修コーディネーターとして、シルクロードへと足を踏み入れることができた。ウズベキスタンのフェルガナやピスケントでは、かつてTVで観た人々の表情や風景が広がっていた。トルコ語でyavaş yavaş（ヤワーシェ ヤワーシェ）は「（そんなに急がなくても）ゆっくり、ゆっくりとね」という意味。そんな言葉がここにはピッタリと言える光景であった。子どもの頃の原風景であるシルクロード。30年かかってようやく見られたこの景色は、今のわたしの新しいエネルギーにもなってくれている。「また今日も精一杯元気に生きよう！」と思わせてくれているのだなと改めて感じた。



日本語を学ぶ子どもたちと（ウズベキスタン）

# 教員著作紹介

先生方に自著紹介をしていただきました。それぞれ所蔵館の教員著作コーナーに本があります。ぜひご利用ください。



## シリーズ：日本文学の展望を拓く 第3巻 「宗教文芸の言説と環境」 原克昭編

笠間書院発行 2017年11月10日 所蔵館：本館

日本語・日本文学科 水口幹記

本書は、「日本文学の展望を拓く」と題した5冊シリーズのうちの1冊です。「宗教文芸の射程」「信仰空間の表現史」「多元的実践の叡智」「聖地霊場の磁場」の四部構成をとっていますが、要は日本の前近代を中心に、宗教・思想・文学・歴史・民俗などが相まって成立した世界を、世界各国の気鋭の研究者たちが論じた「既存の日本文学研究」にとらわれない論文集となっています。一つ一つの論文は、専門的なこともあり学生には少々難しいところもあるかもしれませんが、興味のあるところだけでも頑張ってみると、見たこともない新しい世界が拓かれるはずで。なお、私は蘇民将来について、平田先生は弥勒信仰と西行についての文章を載せています。



## 「Off-JTに活用する人間関係づくりトレーニング」 船木幸弘著

金子書房発行 2017年9月29日 所蔵館：花川館

人間生活学科 船木幸弘

キャリア教育に適した体験学習のテキストです。アクティブラーニングが広がっていますが、エクササイズをとおして「人間関係づくり」を体験的に学ぶ（知識だけを一方的に押しつけない）効果が期待できます。第1章「むきあう」から「気づく」「わかる」「かかわる」「みとおす」「協働する」「きめる」という7章構成で、学習理論や社会人でも活用できる複数のビジネス理論も掲載しています。「コミュニケーション」「価値観」「フォローシップ」「チームビルディング」「マネジメント」「課題解決」「知識の創造」をKey-wordに、第一人者の星野欣生氏の監修を受けて「すすめ方」も解説し職場内の「Off-JT」研修や個人でも活用できるように編集しています。



## Visual 栄養学テキスト「人体の構造と機能および疾病の成り立ち III 疾病の成り立ち」田中清編

中山書店発行 2017年9月30日 所蔵館：花川館

食物栄養学科 小山田正人

本書は、管理栄養士のカリキュラムの「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」のうち、疾病の成り立ち、すなわちヒトの主要疾患の成因、病態、診断および治療のポイントをわかりやすくまとめた教科書である。編者の田中清先生（神戸学院大学教授）や私を含めて、ほとんどの執筆者が管理栄養士養成大学の教員で、疾患の病態についての理解が十分ではない学生のために、簡潔な文章と多数の図表は、ビジュアルで親しみやすい。管理栄養士が適切な栄養療法を行うためには、各疾患の病態を正しく理解することは必須であり、その材料として、本書の有用性は高いと考える。また、サイドノート欄には栄養学の面白さや魅力を伝えるエピソードも記述されている。

\* 小山田先生は2章を執筆されています。





## 管理栄養士養成テキストブック

「給食経営管理論」片山直美, 原正美編

みらい発行 2018年4月10日 所蔵館: 花川館

食物栄養学科 **村田まり子**

高齢社会の進展、生活スタイルの多様化、外食産業の発展など、給食を取り巻く環境の変化は著しく、管理栄養士は、各給食施設において運営の見直し、経営の効率化により常に環境の変化に対応できる実務実践能力が求められています。また、給食業務を統括する責任者として、管理や統制のための知識と経験、判断力が必要とされ、戦略を立て経営に参画することが望まれています。本書は、国家試験をクリアできる基礎レベルと同時に、実務実践レベルの橋渡しまで、専門能力を高めることができる給食経営管理論の講義用テキストとして企画しました。特に第3部特論では、各給食施設ごとに特徴を解説し、臨地実習の事前学習に役立つ内容となっています。

\* 村田先生は第14章を執筆されています。



## 「これからの保育と教育: 未来を見すえた人間形成」

吾田富士子編著

八千代出版発行 2018年5月23日 所蔵館: 花川館

保育学科 **吾田富士子**

“Starting Strong” (人生のはじまりこそ力強く) はOECDの乳幼児教育部門のスローガンです。この頭文字をとった世界の子どもに関する調査報告書は、SS I~VIまで報告されています。本書は、このような世界の保育・初等教育の動向を中心に、子ども時代がなぜ大切なのか、乳幼児期に育つ非認知のちからと人生の始まりの時期が持つ特別な意味、日本の教育改革の方向性など、現在と未来を生きる子どもたちの人間形成をテーマに編纂しています。2018年度より施行されている新たな幼稚園教育要領、保育所保育指針等にも対応し、あらためて子どもが育つとはどういうことなのかを考える、保育者・教育者を目指す学生のテキストとなっています。

# 図書館委員会からのお知らせ

## 2018年度図書館委員

### 図書館長

渡邊 浩 (文学部・文化総合学科)

### 委員・文学部

井筒 美津子 (英語文化学科)  
水口 幹記 (日本語・日本文学科)  
平井 孝典 (文化総合学科)

### 委員・人間生活学部

岡崎 由佳子 (人間生活学科)  
岸 知子 (食物栄養学科)  
新海 節 (保育学科)

### 委員・職員

中村 友昭 (図書課長)  
麓 あゆみ (花川オフィス図書課係長)



## 2018年度図書館委員会としての検討課題

- ① 図書館ラーニング・ commonsの活発な活用
- ② 図書館と学生、および教員との協働
- ③ 地域貢献および大学広報ともかかわるオープン・ライブラリーの継続

## オープン・ライブラリーの実施

2018年度も女子高校生対象にオープン・ライブラリーを開催中。今年から通年利用できるようになりました。(定期試験期間および卒業論文提出期間の利用は除きます) 高校生が図書館内で迷っているのを見かけたら、学生のみなさん声をかけてください。

## 図書館学生スタッフ「LiSt」の活動

図書館学生スタッフ「LiSt」発足から2年目に入り、図書館カウンター業務、事務補助業務、図書館新入生オリエンテーション、オープンキャンパス図書館ツアー、各種イベントの企画やお手伝い(選書ツアー、大学祭展示)の活動が増えてきてます。勉強と仕事を両立していることで苦労もありますが「LiSt」は学内においても注目されるようになり、図書館だよりや大学広報にも紹介されました。今後とも図書館学生スタッフ「LiSt」の活動に注目してください。

# 第3回 学生選書ツアー開催

2018年6月22日、23日の2日間、三省堂書店札幌店で選書ツアーを実施しました。2日間合わせて18名の学生が参加してくれました。

昨年度に引き続き、学生スタッフLiStも2名運営補助スタッフとして参加しました。1日目に参加したLiStと選書に参加した2名の学生さんに感想を書いていただきました。

今回選書した本は、両館で展示する予定です。

## 選書ツアーに参加して

### LiSt 青田

今回私は、6月22日に写真撮影や運営補助のためにスチューデント・ジョブ (SJ) として選書ツアーに参加しました。以前から気になっていたものの、なかなか都合が合わずに参加できていなかった選書ツアーにこういった形で参加することができて、とてもうれしく思います。

22日の参加者は両学部合わせて8名で、三省堂書店さんで選書させていただきました。写真撮影のために私も店内を回っていましたが、参加者の皆さんがそれぞれ異なる分野の棚の前で「どれにしようかな」と楽しそうに、そして真剣に悩んでいる様子がかがえました。ゼミで使いたい本や語学の本、文庫本や料理本など、それぞれ個性の出る幅広いジャンルのものを選んでいました。選んだ本がすでに図書館に入っていて「ならこれだけ」と少し選んで終わりの人もいれば、「これと、これと、それからこれも気になってた!」とたくさん本を選び、ぎりぎりまで悩んでいる人もいました。

今回参加してみて、選書ツアーでは自分が思っていた以上にいろいろなジャンルの本をたくさん選べ

ることがわかりました。また、選んでいく中で「これは図書館にあるよ」という本も結構見つかりますが、それはそれで、読みたいと思っていた本がすぐ近くにあることを知ることができるいい機会になると思います。特にゼミなどで使えるような専門的な本はすでに図書館に入っていることが多いので、皆さんぜひ図書館で探してみてください。

今回はSJとしての参加でしたが、楽しそうに本を選ぶ参加者の皆さんを見て、次回は選ぶ側として自分も参加してみたいと思いました。本が好きの人、図書館が好きの人、選書ツアーが気になる人、皆さんぜひ次回の選書ツアーに参加してみてください。自分の読みたい本が図書館に入る、そんな素敵な機会を逃す理由はありません! どうしても都合の合わない人は、館内の購入希望コーナーなどから気になる本をリクエストすることもできるので、ぜひ活用してみてください。

最後に、今回参加してくださった皆さん、選書ツアーへのご参加と撮影のご協力ありがとうございました!

\*LiStとは、スチューデント・ジョブ(SJ)の愛称で、Library(図書館)とStudent(学生)から学生が考えた造語です。



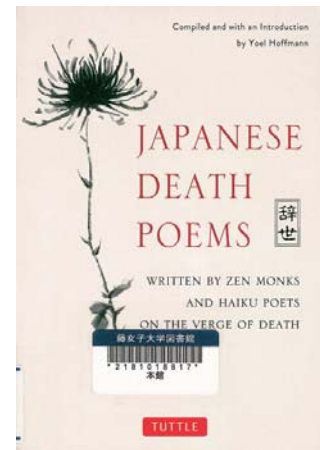


# 選書ツアーに参加した学生さんから

## 文学部 日本語・日本文学科2年 齋藤さん

二年生に進級し、昨年に引き続き今年も選書ツアーに参加させていただきました。前は日本史関連の本を多く選んだのに対し、今回は日本神話に関する本や語学書を中心に選びました。書店の本を直接手に取って選ぶことで、興味のある分野が変化してきたことを実感することができました。

選んだ本の中でも特にお勧めしたいのは、Yoel Hoffmann著 *JAPANESE DEATH POEMS* です。題名の通り、本書では英訳された主に辞世の句が多く紹介されています。例えば、西行のかの有名な代表歌は英訳すると、”I wish to die in spring, beneath the cherry blossoms, while the springtime moon is full.” となります。他にも古典文学作品に出てくる様々な和歌が英訳されています。全編を読むのは難しいですが、本書を通して三十一文字で詠まれた和歌がその風流を保ったまま英語に翻訳されている様子を味わってほしいと思います。



## 人間生活学部 人間生活学科2年 釣部さん

昨年の選書ツアーに参加し、続いて今年も開催されると言うことで参加させていただきました。場所はステラプレイス三省堂書店で、当日授業後の足取りは軽く、遅ればせながら到着しました。少々の説明を受けた後はすぐに本の選書に取りかかり、その最中の私は落ち着きがなく書店のあちこちを回って本を抱え、2時間ほどのとても楽しい時間を過ごせました。選書したのは「読みたい・読んでほしい」そんな本で、参加者のPOPが図書館カウンター前に展示されます。POPを見て色々な人が読んでくれるかもしれないと思うと嬉しく、そう言った部分でも楽しめる企画です。

また機会があるのならぜひまた企画していただき、たくさんの人に体験してほしいと思います。

## LiSt 活動報告 第3回

### [本年度もLiStは楽しく活動しています。]

本年度もLiStは様々な活動を行っています。

本年度の初仕事はまず、新入生図書館オリエンテーションのお手伝いをさせていただきました。図書館の利用方法について説明をした後、新入生の皆さんには図書館内にあるクイズを解いてもらい利用法について理解を深めていただく内容となっており、参加された新入生の皆さんは楽しみながらクイズを解いていました。

また、私は選書ツアーに参加者として初めて参加しました。専門書から文学作品までいろいろな本を手に入る機会となり、とても楽しい時間でした。

さらに、昨年度と同様に今年度も夏のオープン

キャンパスで高校生に対して館内を案内する図書館ツアーのお手伝いをさせていただきました。

そして、今後の活動は、大学祭にてワークショップを開催します。

LiStは、利用者の方々が楽しく快適に図書館を利用できるように今後も様々な活動を行っています。図書館でお困りの際はお気軽にお声がけください。



(北16条LiSt 原谷)

# 辞書は利用すべし、 信用すべからず！

日本語・日本文学科 名畑 嘉則

文章を読んでいて知らない言葉に出会ったら、とりあえずまずは辞書を引く（今ならスマホか？）。漢文を読むときもまた然り。漢和辞典は漢字の意味を調べるものと思っている人も多いだろうが、実は本来漢文を読むための辞書である（英和辞典が英文を読むためのものであるのと同じ）。

ただし、漢和辞典の解説は、実はその言葉の典拠の文章に付けられた注釈の解釈をそのまま引き写しただけのものである。だから、言葉の意味を知るには辞書より原典の注釈そのものを見た方が確かだし、原典を確かめずに辞書の解説を鵜呑みにすると、かえって意味を取り違えてしまうことさえあり得る。漢文の解説ということからいうと、「言葉の典拠・用例を知る」ことこそが、漢和辞典を引く主な目的なのである。

例えば「克己」という言葉。『論語』顔淵篇が典拠で、辞書には「自己の欲望に打ち勝つ」といった意味が載せられているのだが、これは南宋の朱子の注に基づく。しかし、より古い注釈、たとえば魏の何晏の『論語集解』では「克己は約身（身を引き締める）なり」と解されているし、『後漢書』周挙伝には「成湯遭災以六事克己（殷の湯王は天災に遭遇した際に六つの事で自分を責めた）」といった用例もある。こうした古い用例を辞書掲載の意味で理解しようとする間違えることになるのである。

漢文は、典拠や背景知識を踏まえた言葉を駆使して書かれるので、読解のためにはそれぞれの言葉に関する背景知識を網羅した大型の辞書が欠かせない。一時「忖度」という言葉が話題になったが、これが実は儒教の経典『詩経』に由来する由緒正しい言葉であることを知っていた人は少ないだろう。意味は単に「おしはかる」というだけで、別に「偉い人の意向を勝手に想定してそれ

に沿うよう努める」などといった意味はなく、『詩経』の句「他人心有り、予これを忖度す」はむしろ「誰かが悪心を起こしても私にはお見通しだ」くらいの意味に解される…などといったことも辞書の記載からわかる。

漢和辞典の最たるものは、諸橋轍次編『大漢和辞典』（初版全13冊、修訂版全15冊）である（親字5万余字、熟語53万余語を収録）。戦前の準備段階から初版完結（1960年）に至るまで30年以上もの年月を費やしたその編纂は一大事業と称するに足るものであった（編纂過程の艱難辛苦については、出版に生命を捧げた大修館書店創業者・鈴木一平氏による出版後記をぜひ一読ください）。



一方、漢字の本家というべき中国には『漢語大詞典』（初版全13冊、漢語大詞典出版社、1993年完結）がある（親字2.27万、熟語37.5万）。こちらは固有名詞を取らない代わりに、『大漢和』の弱い近世の語彙を採録してくれているので、用途に応じた使い分けができる。

漢字文化の世界の広がりに触れるには、何か知っている熟語を一つ、これらの辞書で引いてみるのも一つの入口になるのではないかと思う。（紙幅が尽きたので、これらの辞書の特長や使い勝手の違いなどについては別の機会に。）

『大漢和辞典』請求記号：813.2/Mo75/1-13（本館所蔵）

## ● 編集後記 ●

図書館だより96号をお届けいたします。

巻頭言は「シルクロードが持続可能な社会の原風景」と題して、松田先生にご寄稿いただきました。トルコに魅せられていく中で先生が感銘を受けられた本や、社会人になられてから影響を受けられた本についてもご紹介いただいています。

図書館資料Naviは、「辞書は利用すべし、信用すべからず！」と題して、名畑先生に漢字文化の入口への第一歩としての漢和辞典の使い方について、ご寄稿いただきました。

また、教員著作のコーナーでも今回は多数のご著書をご紹介いただきました。「読書の秋」です。みなさんも、図書館でお気に入りの一冊を見つけてみませんか？

今回もたくさんの方々にご協力いただき、無事発行することができました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。(K.)



図書館キャラクター  
「きしんさん」

スマートフォンでは  
アプリを利用でき  
ます

藤女子大学 図書館だより 第96号 2018.10

発行者 藤女子大学図書館 札幌市北区北16条西2丁目

TEL 011-736-5407 FAX 011-709-4770

<http://www.fujijoshi.ac.jp/library/>